

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070900168		
法人名	医療法人 聖山会		
事業所名	グループホーム 合歡の家		
所在地	長野県伊那市荒井3835-1		
自己評価作成日	平成22年2月24日	評価結果市町村受理日	平成22年9月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaiqosp/infomationPublic.do?JCD=2070900168&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら人として「共に過ごし、学び、支え合う」関係作りを大切にしている。隣接する同法人の伊那神経科病院から定期的な往診を受けることが出来、利用者や家族にとっては安心感がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する同法人経営の病院、老健、宅老所と有機的な協力関係を築きながら、周辺に伊那市の老人憩いの家、住宅街があり立地条件に恵まれた中での事業経営となっている。入口に名前の由来の「合歡の木」があり、周囲にも季節の移り変わりを感じられる木々が植えられている。理念に「ゆっくりと話を聞き、一緒に過ごす時間を大切にする。」とあり、利用者に寄り添い、尊厳や誇りに配慮して、認知症になっても豊かに過ごしていけるよう、共に過ごし、支え合う関係になることを目指して介護に携わっている。笑って、健やかに、安心して、自分の家に居るように生活して頂けることを日々の大切なテーマとして取り組んでいる。思いを込めて建設した創始者の趣のある和洋折衷の造りは、穏やかで、味のある、大人の空間が広がっており、ソファーに座ると、ゆったりとした居心地のよさが味わえた。調査日の昼食は、お勤め上手の利用者に促されて、おかわりをしたが、何処にでもある当たり前の、懐かしい家の匂いが感じられた。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員には理念を伝え理解してもらうようにしている。ミーティングや関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ、職員間で確認している。	「すこやかな日常生活の援助」を基本理念とし、利用者への介護のあり方、職員の業務での姿勢を盛り込んだ事業所独自の理念を掲げている。ミーティング等で職員への共有化を図ると共にパンフレットやたよりにも掲載し、事業所が目指すサービスの在り方を理解してもらえるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に周辺の散歩、地域のお店への外出をしている。また、地区の運動会、文化祭に参加させていただいている。	周辺に同法人経営の老健・宅老所、伊那市の憩いの家、一般住宅と立地条件に恵まれている。地域行事に参加したり、ボランティア団体が訪れたり、事業所行事に招待したりと、地域と親しく繋がりがながら「すこやかな日常生活」の実現に向けて取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区行事に参加させていただく際、認知症という病気の説明をさせていただき、理解を求めている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で行なわれているサービスの報告は各係活動を通して報告している。また、話し合いの中で気づきや意見は、サービスの向上に活かしていけるように努めている。	各係からの報告や事業所の現状報告が透明性を持って議題として提出されている。会議に利用者も参加し、地域・行政からの参加を得て、自由に意見交換の出来る充実した会議となっている。職員への会議内容の回覧もあり、サービスの向上へ繋げるよう取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して実情や、支援内容を伝えている。	行政とは事業所で開催する運営推進会議の折に現状の説明をし、理解を得よう努めている。介護保険の加算算定等については、役場に出向いてアドバイスを頂いている。介護相談員は年1回、2人が訪問している。	事業所にとっては、行政の理解や協力支援が必要であり、行政は保険者として、事業所の現状や認知症の実際の理解が必要であるので、相互にさらなる協働関係を築かれることを望みます。又、介護相談員の訪問回数が増えて、利用者の良き代弁者となることを期待します。

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ケアについては、今後も積極的に研修等に参加し、研鑽していきたい。また、生命に危険が無い限り、拘束ケアは行っていない。	現在、ベッドからの転落防止のため、同意を得てベッド柵をしている方が1名居るが、身体拘束をしないケアについての職員の認識の共有化は出来ている。昼間の玄関の施錠はなく、見守りや連携プレー、時には一緒に外出に付き添うなどにより温かい介護が実現できている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修には毎年職員が交代で参加している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修を受けているが、全職員に説明していないため、理解は十分ではない。その為支援が必要な時には、同法人の支援相談員に相談や助言をもらう。今後、他職員も研修に参加したり、部署内で勉強をしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行なっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその想いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。また、日々ミーティングを開き話し合いを行ない、意見や気づきが特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。	年4回たよりを発行し、年2回家族交流会を開くなど、ご家族とのつながりを大切にしている。利用者とは、「共に過ごし、学び、支え合う」関係作りに努め、安心して過ごしていける場所となるよう取り組んでいる。「気安く、冗談が言える」というご家族の声もあり、事業所との良好なコミュニケーションが出来上がっている。意見等については日々のミーティングで話し合わせ、速やかに対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人に目標管理設定手法を教育し年1回の面接時に直接聞き取りを行なって指導している。	担当する係での1年間の目標を決めて、その取り組み計画を立てるという目標管理設定手法を活用しながら、職員の意見や提案を聞くよう努めている。又、管理者が日々の職員の様子を見て、早い段階で声を掛け、話を聞いたり、職員同士で教えたり、教えられたりする関係を作っている。様々な話がグチで終わらないようにすることを常に心掛けている。	

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>目標管理手法を通して行なっている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>目標面接を通して実行している。研修は各自に必要なと思われるものへの積極的参加を促している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>行なっている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>笑顔で接することを大切に環境にも配慮しながら、利用者が安心できるよう関係づくりに努めています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、これまでの経緯についてゆっくりと聞くように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。</p>		

外部評価結果(グループホーム合歡の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識は持たず、お互いが協同しながら和やかに生活できるように場面作りや声かけをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを聴き、寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を支えていくための協力関係を築いていくことに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との文通、面会等、ご家族の理解と協力を得ながら、支援に努めている。今後継続的な支援を行えるよう努力していきたい。	知人や友人が訪ねて来たり、出掛けて行ったり、知人等と手紙等で連絡したりすることについて、ご家族の理解を得ながら、これまでの関わりが継続出来るよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、情報連携し、職員全員が共有出来るようにしている。毎日のお茶の時間や食事の時間は、職員と一緒に多くの会話を持つようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への加療により、退居するケースがほとんどであるために、関係性の長期・継続性は難しい。病室にお見舞いで伺わせていただいている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にとって、何処で、誰と暮らすことが最良なのか、家族を交え、また、合歡の家の理念に立ち戻り、検討している。	センター方式を活用したり、日々の関わりや会話の中から、どんな思いがあるのか、どんな暮らしを望んでいるのかを把握するよう努めている。理念にある「一緒に過ごす時間を大切にする」ことの実現を目指して、利用者職員が共に過ごし、支え合う関係となるよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からは、日々の関わりや会話の中で把握に努めている。また、日々の様子をご家族にお話する際、入居前はどうであったのか教えていただいている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活・心理面の視点や、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聴き、反映させるよう努めている。都度、ミーティングを開き、アセスメントを含め、意見交換を行なっている。	センター方式を活用して課題分析を行うと共に、利用者やご家族の思いや意見を聞いて、出来ないことより、出来ることに注目して介護計画を作成している。利用者の担当者が会議を招集したり、ミーティング等で他の職員の気付きを聞いたりするが、それらを踏まえて、計画作成担当者がプランニング、モニタリング、評価を行っている。計画の設定期間毎の見直しはするが、日々のミーティングで心身の変化の把握をし、臨機応変の見直しも行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、受診の付き添いや送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員の方と話す場を設けた。		

外部評価結果(グループホーム合歡の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診前には、必ずミーティングを開き、状態はどうか？前回と変わった様子がないか個人ノートに記載し、かかりつけ医に報告している。</p>	<p>利用者やご家族の希望するかかりつけ医となっており、認知症に関しては同法人が経営し、隣接する協力医療機関(定期的往診あり)となっている方が多い。かかりつけ医との良好な情報交換が出来ており、健康管理や医療面での安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人内の看護師に報告、相談は密にし、必要な医療が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後は、状態の把握には努めている。また、医療関係者との情報交換を行なっている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時より、必要に応じてご家族と話し合いは行なっている。事業所でどこまで出来るのか、ご家族の協力はどこまで得られるのか、確認していくようにしている。</p>	<p>重度化や終末期については、医師や看護師の対応が難しいので、医療依存度が少ない場合には、必要に応じて、ご家族等と話し合い、ご家族の協力を得て、対応するよう取り組んでいる。現在、ターミナル対応に取り組んでいるが、ご家族や職員の認識や方針の共有化により、穏やかで、自然な介護が行われている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>同法人内の医師・看護師に常時報告、指示を受けられる体制はある。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間の火災を想定し、避難訓練を行なっている。運営推進会議で、避難の際の協力を呼びかけている。</p>	<p>夜間想定避難訓練を全職員参加の下、1回行っている。スプリンクラーの設置、自動通報装置などの防災設備は整っている。事業所からは地域へ協力依頼を行っており、地域からは、水害を含めた災害体制の構築に向けての協力要請もあり、地域と連携して対応する態勢となっている。</p>	<p>通報・避難誘導・消火訓練は、昼・夜想定で年2回は全職員参加の下、行うことを期待します。さらに、短時間で出来るイメージトレーニングを頻度よく実施することを期待します。</p>

外部評価結果(グループホーム合歡の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の言動を否定しないように、声かけ等には注意を払っている。	個人情報の取り扱いについては、契約書にも明記し、十分に説明すると共に、職員も認識を共有化し、誇りや尊厳の保持に配慮した言動となるよう取り組んでいる。言動で気付いた事は管理者がミーティングで注意を促すようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思を表示できる場合は尋ねる。本人の意思表示は出来るが、言葉として伝わってこない時はその方の表情や視線から予想して声をかけ、働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っている。一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重できるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、散髪の時節などご本人の意思、またはご本人と意思疎通が難しい方はご家族に確認して、地域の美容院に来居してもらったり、行きつけの美容院にでかけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行なっている。	食事の調理から食器拭きまでの関わりは、利用者の心身の状況を踏まえて、休むことも入れながら、出来る範囲で職員と一緒にやっている。職員の中で、献立作成や食材の買い出し担当者を決め、畑で採れた物やおすそ分けて頂いた物を取り入れて食事作りをしている。流しソーメン・よもぎ餅・冬至カボチャ・焼き芋など季節や郷土を味わえる楽しい食事やおやつの工夫もしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3度の食事、午前午後のお茶の時間で摂取できている。利用者の身体の状態や希望に応じて、都度水分が摂取しやすいように支援している。		

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。義歯の方は定期的又は、必要に応じて義歯洗浄を行なっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	あからさまな誘導では無く、ご本人の羞恥心に配慮しさりげなく支援している。	排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮をしながら、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けをして、排泄の自立に向けた支援をしている。便座に座っての排泄が一番自然な姿勢であるので、シャワーチェアを活用するなどの工夫も取り入れている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取り入れたりしているが、個々の予防の工夫は努力していきたい。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な流れはある。一人ひとりのタイミングは考慮しているが、希望にも合わせられるよう、考えていきたい。	入浴は毎日、午後、希望に応じて3~4人が入り、1人週3回程入浴している。ゆっくり入りたい人、一番風呂希望者、利用者の都合によるシャワー浴など個々にそった支援に努めると共に、菖蒲湯などの季節感のある楽しみも取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安な表情や訴えには、ゆっくりとご本人の話を聴き、安心感がみられるまで寄り添います。夜間に起きてこられた時もゆっくりと声をかけ、必要な支援をしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。処方の変更になった際には、主治医へどのような点の観察が必要か、必ず確認している。		

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の誕生日には、嗜好品をメニューに取り入れている。また、個人的に外出の希望があったときは、ご家族の協力、理解をいただきながら希望に沿えるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の職員体制、他利用者の方の状態にもよるが、ドライブ、散歩、買い物等で外出する機会をつくっているが、希望にそえるよう工夫をしていきたいと思う。	散歩には最適な立地条件があり、隣接施設の教室に行ったり、買い物外出も含めて周辺の散歩に頻度よく出掛けるよう取り組んでいる。イチゴやブドウ狩り・花見・赤そば見学などの遠出のドライブも企画し、戸外に出て、気分転換や五感の刺激となる機会を多く持つよう努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持の支援は大切に思っているが支援にはつながっていない。必要性は十分に感じている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にそって支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸の開閉時の音には注意をはらうなど気をつけている。心地よい空間、環境作りには工夫をしているが、さらに努力をしていく必要もある。	和洋折衷の造りで、露出した梁、温か味のある木製の下壁、腰高の畳の間、ゆったりとした洋風のソファとテーブルの置かれた間、スタンドグラスが収まった居室のドア、と全体として調和が取れ、落ち着いた、十分な広さを持った居心地のよい共用空間になっていた。壁には絵画や趣きのある人形が飾られ、畳の間の床の間には季節の花が据えられ、平穏で、情緒豊かな時間が流れていることが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内の3ヶ所のホールがある。思い思いに過ごせるように工夫はしている。		

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人の馴染みのあるものを持ってきていただくように説明している。	居室は和室・洋室・腰高の間のある和洋室の3種類あり、使い方は自由になっている。収納棚と手洗いは事業所で準備したが、それ以外は利用者ご家族で自由に、馴染みの家具等を配置している。清掃への配慮があり、「いやな匂いがなく、きちんとしている。」というご家族の声もあり、訪問しても居心地よく過ごせる空間となっていた。出窓から見える木々が季節の移り変わりを感じさせてくれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		